

香川方言の文末詞「な」の音調と使用における世代差について

— 「なんしょん(な)」「ご飯食べたん(な)」を中心に—

轟 木 靖 子

1 はじめに

本稿は、香川方言の文末で使われる「な」の音調と用法について、「なんしょん」「なんしょんな」「ご飯食べたん」「ご飯を食べたんな」の聞き取り調査の結果にもとづき世代差に焦点をおいて考察する。

「なんしょん(ナン「ショ」ン)」「なんしょんな(ナン「ショ」ンナ)」は「何をしているの?」という意味で、香川方言話者の間では、挨拶のように使われる言い方である。もともと「なんしょんな」が使われていたようだが、飯田(2017)では、若い世代を中心に文末の「な」をつけない「なんしょん」という言い方がよく使われること、また、ご飯を食べたかどうか確認する「ご飯食べたんな(タベ「タ」ンナ)も文末詞の「な」をつけない「ご飯食べたん(タベ「タ」ン)」という言い方のほうが使われる傾向があるという調査結果が報告されている。轟木・飯田(2018)では、飯田(2017)の調査に20代女性と40代女性の話者を被調査者に加え、「なんしょん」「なんしょんな」の文末イントネーションと意味・機能の対応について再整理をおこなった。その結果、ナン「ショ」ン(疑問型上昇調)、ナン「ショ」ン(無音調)はあいさつや会話の開始、ナン「ショ」ンナ(無音調)は注意、ナン「ショ」ンナ(疑問型上昇調)、ナン「ショ」ン↑ナ(強調型上昇調)はやさしい言い方、という傾向がみられた。若い世代では「な」を使用しないという話者も多かった。

このときの調査では、「な」をつけた言い方は40代以上に多く、20代で少ない傾向が見られた。「な」をつけない言い方が増えるのは30代の話者であることが予測されたが、この時点ではその世代の被調査者を集めることができなかった。今回、香川県内で成育した20代から40代の男女6名の聞き取り調査の結果を分析し、「なんしょん(な)」「ご飯食べたん(な)」の文末音調の違いに対応した意味・機能が30代の話者を中心にどのように変化しているかについて考察する。

2 上昇調の2種について

文末音調については、郡(2015)により、音声的には疑問型上昇調、強調型上昇調、平坦調、上昇下降調、急下降調、無音調の6種類を認める。このうち、意味の区別に関与するという点で文末音調を考えた場合、平坦調は強調型上昇調の変種、急下降調は上昇下降調の変種である。

本稿で関係するのはこれらの音調のうち疑問型上昇調、強調型上昇調、無音調である。疑問型

上昇調は、轟木(2016a)の疑問上昇である。疑問文の末尾に典型的にみられる上昇で、疑問をあらわす「か」がつかなくても、文末をこの上昇で言えば尋ねているように聞こえる。強調型上昇調は、轟木(2016a)のアクセント上昇である。語アクセントの低い拍から高い拍への上昇と同様の上昇の仕方であり、強く主張するときに語末拍を際立たせて発音させるときにも見られる音調である。たとえば「帰るの(HLLL)」の「の」を疑問型上昇調で発話すれば、帰るかどうか尋ねる発話に、強調型上昇調で発話すれば「絶対に帰るんだ」と主張している発話になる(注1)。終助詞の場合、たとえば東京方言および共通語では「よ」は疑問型上昇調と強調型上昇調であらわす意味に差はみられないが、「ね」は異なる意味に対応していると考えられる(轟木(2008, 2016b))。

無音調は、特別な上昇や下降もなく語アクセントに従っただけの音調である。轟木(2016a)では平坦としているが、かならずしも平坦ではないこと、また郡(2015)の平坦調(強調型上昇調の上昇が顕著でないもの)と区別がつきにくいいため、本稿では無音調の呼称を用いる。

また、発話の音調については近畿音声言語研究会(2008)を参考に、以下の記号を用いる(注2)。

モーラ間の上昇(低い拍から高い拍へ)	↗
モーラ間の下降(高い拍から低い拍へ)	↘
疑問型上昇調	↗
強調型上昇調	↑

3 香川方言の文末詞「な」の音調と意味・機能について

香川方言の「な」は、共通語の「ね」「の」に近い用法であると考えられる。相手に尋ねたり、確認したりするときに用いられる。ただし、動詞につく場合は「行くんな(イ^ナクンナ)」のように、「ん」を介在することが多い。音調は無音調がもっともよく使われると考えられるが、上昇が用いられることもあるようである。

轟木・飯田(2017)では、「なんしょん」「なんしょんな」「ご飯食べたん」「ご飯食べたんな」の文末音調を変化させたものを香川で生育した男女27名に聞いてもらい、使用の有無や状況について答えてもらった。「な」をつけた発話とつけない発話で違いがみられる場合、「小さい子どもに対してやさしく言う」「身近な人に対して少し強めに言う」等の回答が得られたが、これは聞き手へのはたらかかけの程度が強くなる機能であると考えられる。また、20代では「なんしょん」「ご飯食べたん」のような「な」をつけない言い方をよく使うと答える回答者が多く、40代以上が「なんしょんな」「ご飯食べたんな」を使うと回答しているのと対照的であった。

3.2 「なんしょん」「なんしょんな」「ご飯食べたん」「ご飯食べたんな」の聞き取り調査

3.2.1 調査の概要

飯田(2017)で使用したさぬき市で成育した話者の発音する「なんしょん」「なんしょんな」「ご飯食べたん」「ご飯食べたんな」の文末部分を変化させた発話の音声資料を、香川県で言語形成期を過ぎた20代、30代、40代の男女7名に聞いてもらい、自分が使うかどうか、どんな時に使うか、使わない場合でも聞いたことがあるか、どんな感じがするか、等の質問に答えてもらった。今回の聞き取り調査では、40代1名、30代4名、20代2名の協力を得たが、比較のため本稿では飯田(2017)の40代男女各1名の回答データも加えて検証する。調査時期は2017年8月から2018年8月まで、一人あたりの調査時間は30分から40分程度であった。聞き取り調査で使用した音声を図1から図10に示す。音声はパソコンに保存したものを Windows media player で再生、スピーカーをとおして聞いてもらった。原則として一つの音声について3回繰り返す、要望があれば、その都度回答者の求めに

応じて再生した。

提示した発話資料は以下のとおりである。

- (1) なんしょん(無音調) ナン^〴シヨ^〴ン(図1)
- (2) なんしょん(疑問型上昇調) ナン^〴シヨ^〴ン^〴(図2)
- (3) なんしょんな(無音調) ナン^〴シヨ^〴ンナ(図3)
- (4) なんしょんな(疑問型上昇調) ナン^〴シヨ^〴ン^〴ナ(図4)
- (5) なんしょんな(強調型上昇調) ナン^〴シヨ^〴ン^〴ナ(図5)
- (6) ご飯食べたん(無音調) ゴ^〴ハンタベ^〴タ^〴ン(図6)
- (7) ご飯食べたん(疑問型上昇調) ゴ^〴ハンタベ^〴タ^〴ン^〴(図7)
- (8) ご飯食べたんな(無音調) ゴ^〴ハンタベ^〴タ^〴ンナ(図8)
- (9) ご飯食べたんな(疑問型上昇調) ゴ^〴ハンタベ^〴タ^〴ン^〴ナ(図9)
- (10) ご飯食べたんな(強調型上昇調) ゴ^〴ハンタベ^〴タ^〴ン^〴ナ(図10)

被調査者9名の内訳は以下のとおりである。回答者を示す記号のMは男性、Fは女性、最初の2桁の数字は年齢(10歳単位)をあらわす。

- 高松市 男性 40代 1名 40M01
- 丸亀市 女性 40代 1名 40F01
- 高松市 女性 40代 1名 40F02
- 高松市 女性 30代 2名 30F01, 30F02
- 高松市 男性 30代 2名 30M01, 30M02
- まんのう町 女性 20代 1名 20F01
- さぬき市 女性 20代 1名 20F02

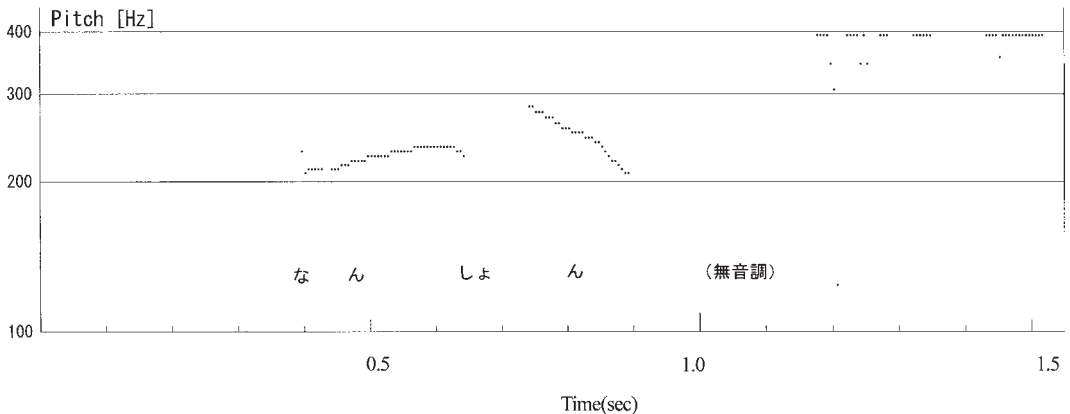


図1 なんしょん(ナン^〴シヨ^〴ン)無音調

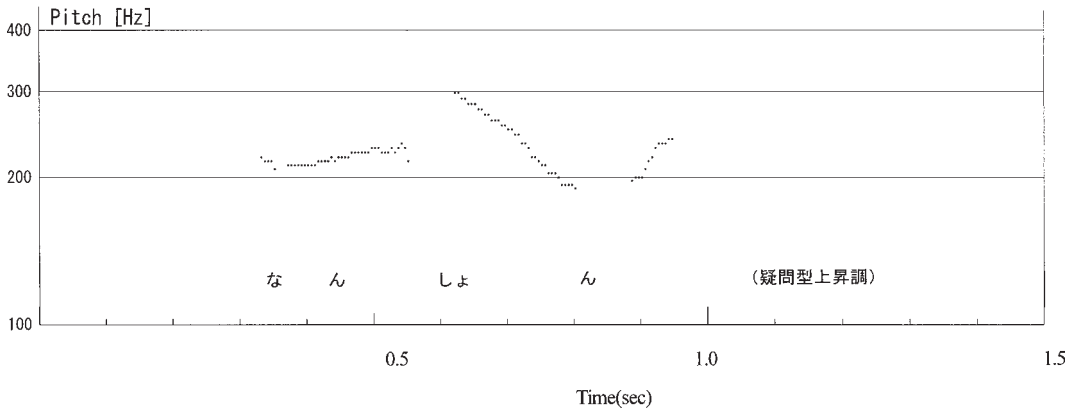


図2 なんしょん (ナン「シヨ」ァン) 疑問型上昇調

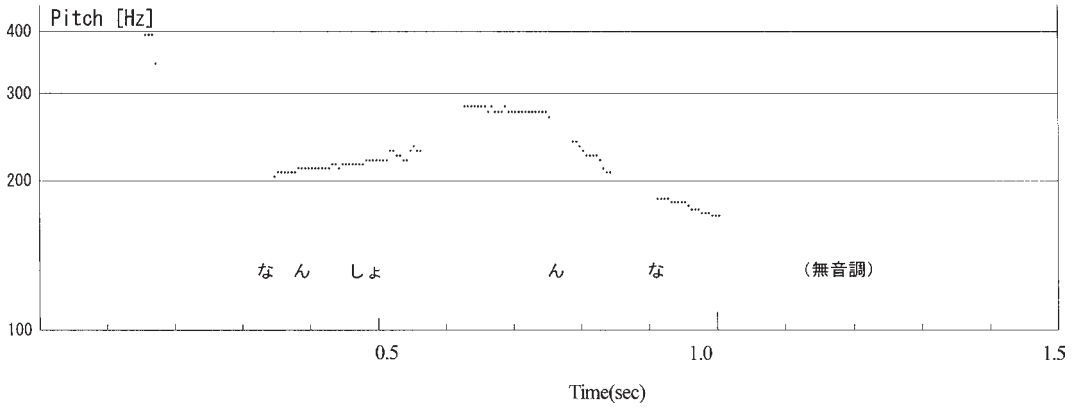


図3 なんしょんな (ナン「シヨ」ンナ) 無音調

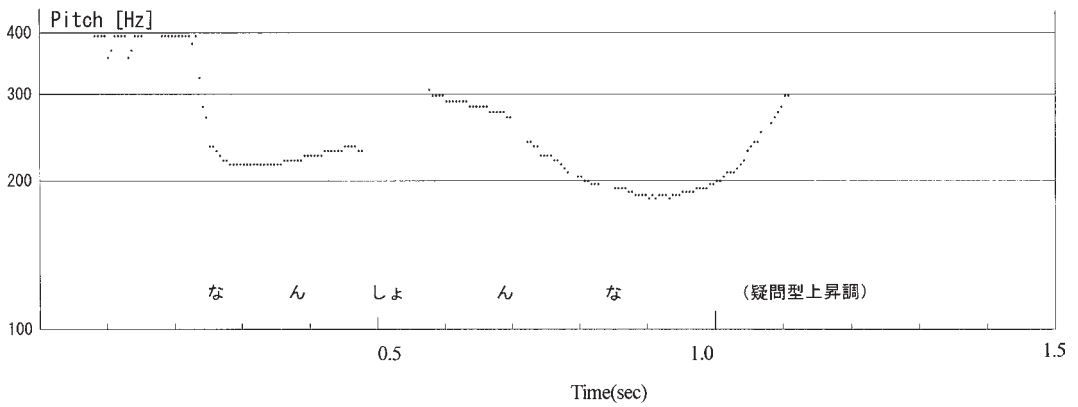


図4 なんしょんな (ナン「シヨ」ンナ) 疑問型上昇調

香川方言の文末詞「な」の音調と使用における世代差について

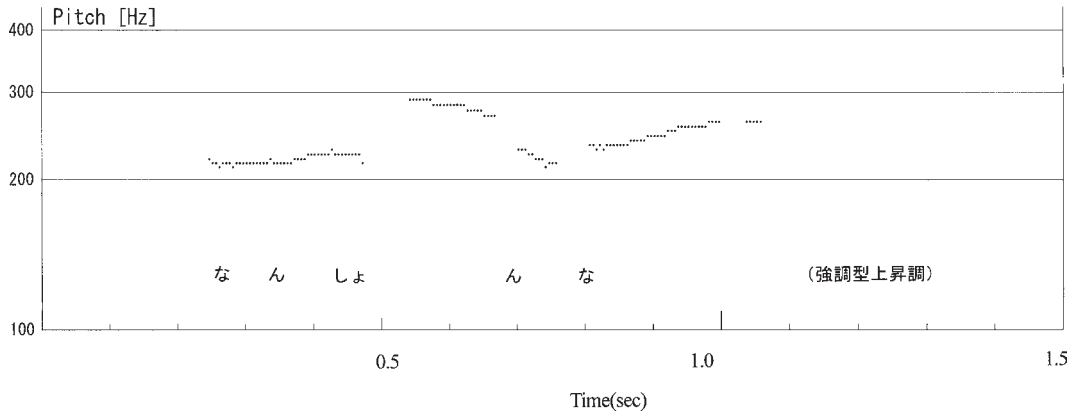


図5 なんしょんな (なん「シヨ」ン↑ナ) 強調型上昇調

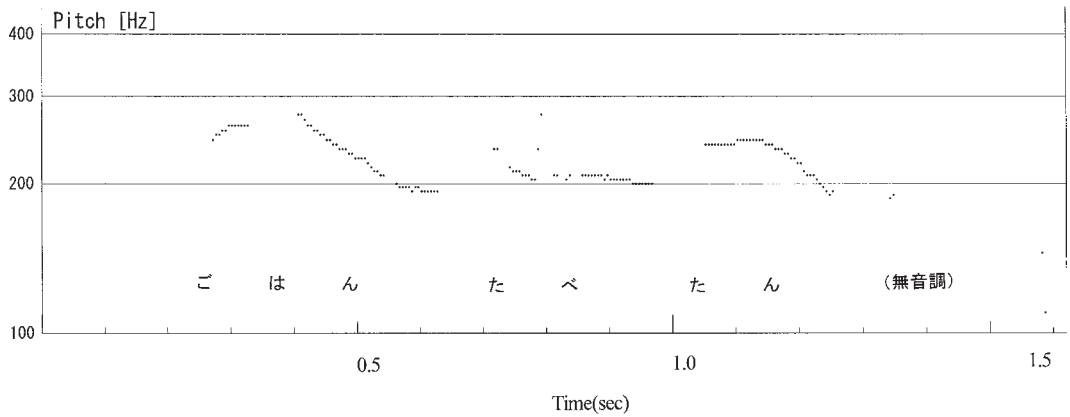


図6 ご飯食べたん (ゴ「ハ」ンタベ「タ」ン) 無音調

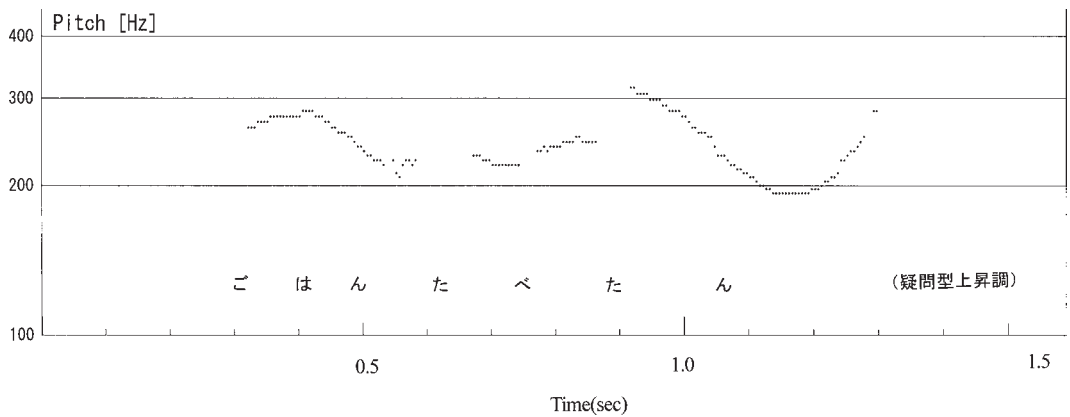


図7 ご飯食べたん (ゴ「ハ」ンタベ「タ」ン) 疑問型上昇調

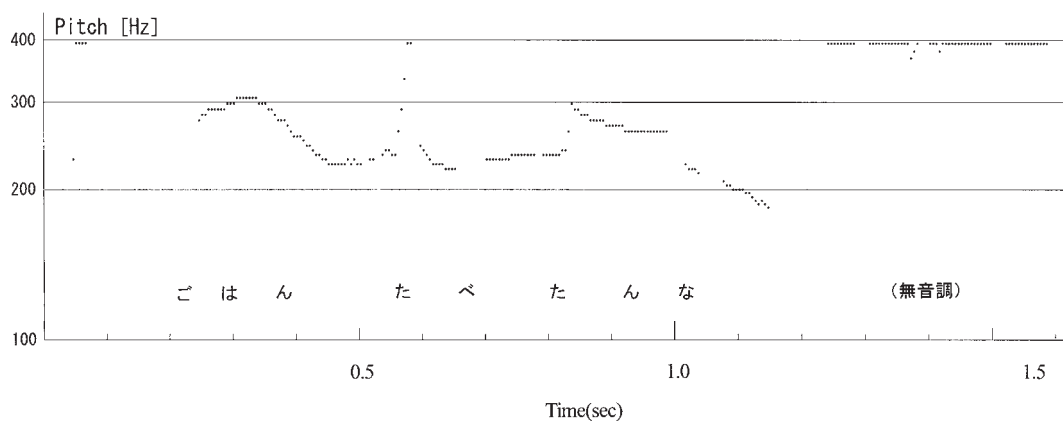


図8 ご飯食べたんな(ゴ^〇ハンタベ^〇タ^〇ンナ)無音調

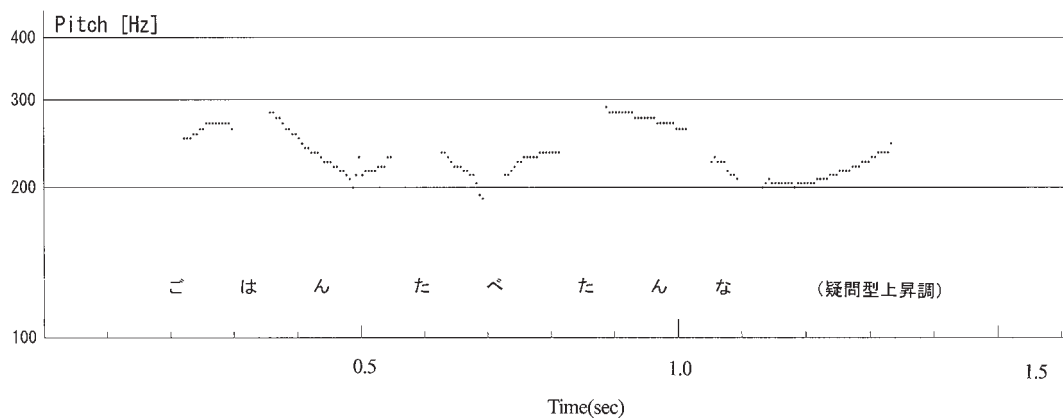


図9 ご飯食べたんな(ゴ^〇ハンタベ^〇タ^〇ン[↑]ナ)疑問型上昇調

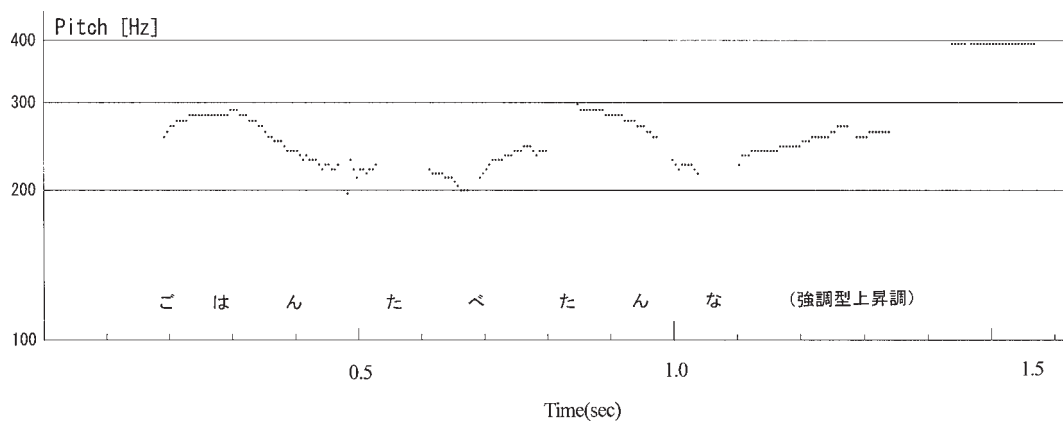


図10 ご飯食べたんな(ゴ^〇ハンタベ^〇タ^〇ン[↑]ナ)強調型上昇調

3.2.2 調査結果

3.2.2.1 全体の傾向

調査結果を表1, 表2に示す。回答者自身が使うかどうかで言えば, 文末詞「な」をつけた言い方は, 「ご飯食べたんな」よりは「なんしょんな」のほうが使われる傾向にあり, また, 「な」を上昇させた言い方は, 20代・30代では年上の話者が子どもに話しかけるイメージで捉えられることが多かった。

3.2.2.2 「なんしょん」と「なんしょんな」

「なんしょん」は無音調と疑問型上昇調を聞いてもらったが, すべての回答者が少なくともこのどちらか一方を自分で使うと答えていた。用法は各世代とも「何をしているか聞く」のほか, 「あいさつのかわり」(40F02, 30M01, 20F02)「子どもに対してつかう」(30F01, 30M02, 20F01)「自分にとって理解できないことをしているので尋ねる」(30M01, 30M02)があった。

無音調の「なんしょん」は自分で使用しないという話者もあり, また両方使う話者の場合は30代と40代の話者は疑問型上昇調のほうが使うことが多いことが伺える回答をしていた(40F01, 30M01, 30M02)。今回尋ねた20代の回答者は二人ともどちらも使うと答えている。

「なんしょんな」は, 20代の2名の回答者と30M02は, 自分で使うことがあるのは無音調で, 「な」を上昇させた言い方(ナン「ショ」ンナ, ナン「ショ」ン↑ナ)は年配者が子どもに尋ねているように聞こえると答えている。30F01, 40F02は無音調よりも「な」を上昇させた言い方を使い, また40F01はすべて使う, 40M01はすべて使わない, と回答が分かれた。

音調による意味の違いに着目すると, 40F01と30M02は無音調の「なんしょん」(ナン「ショ」ン)と「なんしょんな」(ナン「ショ」ンナ)について, 「話し手が少し怒っている」と回答している。これは文末を上昇させた言い方についてはみられなかったものであり, 「なんしょん」「なんしょんな」の無音調に対応する独自の用法の一つとして考えられそうである。同様に「なんしょん」の文末を上昇させた言い方の「子どもにたずねる」, 「なんしょんな」の文末を上昇させた「やさしくたずねる」もそれぞれ独自の用法であると考えられる。これは, そのような発話意図のときにならざる使われるということではなく, その場面での選択肢のひとつになりうる, ということである。「なんしょん」の会話の最初のあいさつのかわりの用法は無音調も疑問型上昇調もどちらの場合もあるようである。

3.2.2.3 「ご飯食べたん」と「ご飯食べたんな」

無音調の「ご飯食べたん」(ゴ「ハン」タベ「タ」ン)については回答者全員が「使う」と答えていた。意味は, ごく普通に確認するほか, 誘うつもりで尋ねる, 心配して尋ねる, 等の回答が得られた。疑問型上昇調の(ゴ「ハン」タベ「タ」ン↑)は, 30F01と30M01は, この言い方のイメージがつかみにくいと回答しており, 他は無音調よりも強いかんじがするという40F02, やわらかいかんじがするという20F01, 「いっしょに食べたかったのに食べちゃったの?」の意味という30M02, 20F02の回答があり, ばらつきがみられた。

「ご飯食べたんな」については, 強調型上昇調(ゴ「ハン」タベ「タ」ン↑ナ)については40代の3名と30F02が使うと答えており, 他の音調に比べて使用者が多かった。これは, 確認の意味で使われるようである。40代の回答者についてみると, 40F02は強調型上昇調のみ, 40F01は疑問型上昇調と強調型上昇調, 40M01は3種類すべての音調を, 30代で1名だけが強調型上昇調を自分で使うということから考えると, 「ご飯食べたんな」のような言い方は40代よりさらに上の世代ではよく使われていたのが, 40代あたりから使用者が減っていると予測される。飯田(2017)の調査結果では, 50代の回答者にも「ご飯食べたんな」をどの音調でも自分では使わないという回答者がいるいっぽうで80代の回答者2名はどの音調の言い方も使用すると答えており, 30M01, 30M02, 20F01, 20F02はいずれも年配の人が使うイメージであると回答していることもその傍証であると考えられる。

表1 調査結果「なんしょん」「なんしょんな」 IR: 疑問型上昇調, AR: 強調型上昇調

	1なんしょん	2なんしょんIR	3なんしょんな	4なんしょんなIR	5なんしょんなAR
40M01	○ 声をかける 怒ってはいない	× 興味があって聞かれて いるかんじ	× 近所のおじさんが声を かけているかんじ お年寄りが使用するイ メージ	× 「あなた元気なの？」 と聞かれているかんじ 久しぶりにあった人か ら言われるイメージ	× 「あなた元気なの？」 と聞かれているかんじ 親戚や親しい人から言 われるイメージ
40F01	○ 今どこで何をしている か聞いただけ 少し自分は怒っている	○ 何をしているかたずね る 1より機嫌はよい 目上にも使う	○ 1と同じ：今どこで何 をしているか聞いただけ す 少し自分は怒っている	○ 2と同じ：何をしてい るかたずねる 1より機嫌はよい 目上にも使う	○ 2と同じ：何をしてい るかたずねる 小さい子に対して
40F02	○ 聞く もう少し抑揚をつけて 言う	○ 1より使う 何をしているか聞く 「こんにちは」に近い	× 怒っているイメージ 年下に言いそう	○ ときどき	○ 子どもに言う やんわりと聞く やさしそう
30F01	?	○ 何をしているか聞く 子どもに	△	(○)	○ 友達に言いそう 「なんがでっきょんな」 と声をかける感じ
30F02	×	○(たまに) 何をしているか聞きた い 友達か年下、家族に	△ 2の批判的なかんじ	×	×
30M01	(○) 若い頃、小さい頃は 使っていた 「なんがでっきょんな」 と声をかける感じ	○ 何をしているか聞く 具体的に理由が聞きた い(意味不明なことを しているとき)	△ たまに使うかも 楽しい雰囲気の中で仲 間に外から入れてほしい ときに声をかける くだけた、ふざけた感 じ 同級生や後輩に	? 使ったことがない 聞いたことがない	(○) 若い頃、小さい頃は 使っていた 「いかんでしょ」の意 味
30M02	○ 変なことをしている子 どもや奥さんに少し 怒っている 意味不明なことをし ているので聞く	○ 1より違和感がない 1より使う 子どもに尋ねる	(○) 少し怒っているが1ほ どではない 子どもに言う ことが済んでしまっ て、失敗してるけど仕 方がないかんじ	× 祖母が自分にやさしく 言うかんじ	× 祖母が自分にやさしく 言うかんじ
20F01	○ 何かしている友達に興 味をもって尋ねる	○ たずねる、子どもにき く 子どもたちが遊んでい るときに、仲間に入れ てほしくて	○(たまに) 友だち、家族に お茶をこぼしてしまっ た人に(責めているわ けではない)	× おじいちゃん、おばあ ちゃんが小さい子に聞 くイメージ	× おじいちゃん<おばあ ちゃんが友達に尋ねる イメージ
20F02	○ なにしているのかな？ 確認 すぐに会話が始まるか んじ	○ 何をしているの？ たずねる、好意的	○ 何をしているの？ 家族に言う 予想とちがうことをし ている	×	×

(○：自分で使う △：自分では使わないが周囲に使う人がいる ×：自分でも周りでも使わない (○)昔使っていた ?わからない)

表2 調査結果「ご飯食べたん」「ご飯食べたんな」 IR: 疑問型上昇調, AR: 強調型上昇調

	6ご飯食べたん	7ご飯食べたん IR	8ご飯食べたんな	9ご飯食べたんな IR	10ご飯食べたんな AR
40M01	○ 私いまだから食べたんやけどあなた食べたの?というかんじ	○ 私食べたけどあなた食べたの?というかんじ	○ 普段食べないけどちゃんと食べたの?ちゃんと食べなからだに悪いよ、というかんじ	○ 遠くに住んでいる子どもにいつも食べてるの?と心配しているかんじ	○ ご飯食べ終わったの?かたづけるで、というかんじ
40F01	○ 確認 家族など身近な人に	確認 夫, 娘に	× 少し怒っているように聞こえる	○ 確認 娘に	○ 確認 娘に 9よりもやさしく尋ねる 自分の機嫌はよい
40F02	○ 食べてきたの?どっち?	○ 6より強い感じ	× あまり聞かない「た」の高い言い方なら、なんだ、食べたの、という意味で言いそう	△	○ よく使うちゃんと食べたの?
30F01	○ 食べてきたの?どっち?	?	× 祖母から小さい頃言われた感じ	× 祖母から小さい頃言われた感じ	× 祖母から小さい頃言われた感じ
30F02	○ 特別な意味はなく、たずねている	○ 食べないといけないのを確認している	△ 「え!食べたの」という弱い驚き。 使う場面はかざられそう。	△ 使う場面は少なそうだけれど、ありそう。 歯磨きをしているのを見て言う、など。	○ 軽い確認
30M01	○ なじみがある 年下、子どもに使う	?	× 年配の人が言うイメージ	× 6と同じ意味 年配の人が言うイメージ 古い讃岐弁を使う同級生が言うイメージ	× 9ほど強くない感じ、軽い 年配の人が言うイメージ
30M02	○ たずねる 具合が悪そうな相手を心配して	○ たずねる 食べてないと思ってたのに、食べてたの(いっしょに食べようと思ってたのに)	× 祖父母が自分に言う(強い)	× 年上の人が、6の意味で子どもにたずねるかんじ	× 年上の人が、ご飯を食べたことを知っていて言っているかんじ
20F01	○ 友達を食事にさそう(食べていないことを予想・期待)	○(たまたま) 6よりやわらかい 家族に尋ねる、確認(姉に電話で、など)	△ 母から自分に確認されているとき 「食べてない」と答えにくいかんじ	△ 母が言う やわらかいかんじ	△ 年上の親戚のおばさんが言っている気がする
20F02	○ 率直に聞いている	○ 先に食べちゃったの? いっしょに食べたかったのに	△ 祖母が言う もう食べ終わったの(いっしょに食べているときに)	△ 母または祖母から子に確認(ちゃんとご飯食べたの?)	×

(○:自分で使う △:自分では使わないが周囲に使う人がいる ×:自分でも周りでも使わない (○)昔使っていた ?わからない)

4 考察

香川方言の文末詞「な」は、述語に「ん」を介して無音調、疑問型上昇調、強調型上昇調で発話される場合、確認や念押しの用法でもともと使われており、「な」をつけることによって聞き手へのはたらきかけがなんらかの意味で中立的な状態よりもプラスされる方向にはたらくような使い方がされるものと考えられる。それは強い確認である場合もあれば、子どもにあわせてやさしく問いかけるために使われる場合もあるであろう。若い世代では、「な」をつけない代わりに、「ご飯食べたん」の最後の「ん」や「た」の上昇幅を加減することでそのようなニュアンスに対応した表現をしているようである。

そのなかで、「なんしょんな」はもともとあいさつの代わりのような用法で使われていたこともあり、「ご飯食べたんな」のような通常の文に「な」をつけたものよりも比較的まだ若い世代にも残っているようである。しかし、それは無音調のナン「シヨ」ンナに集約されつつあり、疑問型上昇調や強調型上昇調のナン「シヨ」ンナ、ナン「シヨ」ン↑ナは使われなくなりつつあると言えそうである。

今回の調査では、さぬき市で育成した話者の音声を聞いてもらったが、「もう少し抑揚をつけた言い方なら言う」のような回答もあった。また今回は地域差や性差についてはじゅうぶんな調査・考察ができなかった。今後の課題とし、さらに分析をすすめたい。

注

1 Hは高い拍を、Lは低い拍をあらわす。

2 近畿音声言語研究会(2008)では、疑問型上昇調、強調型上昇調という名称は使っておらず、「東京方言の疑問文末に典型的に見られるような上昇調」「東京方言の終助詞『の』を強い主張の意図で使う際の上昇調」としている。

引用・参考文献

- 飯田奈津美(2017)「香川県の方言の地域差と世代差について - 「なんしょん(な)」「ご飯食べたん(な)」を中心に - 香川大学教育学部卒業論文
- 近畿音声言語研究会(2008)「本号で使用する音調記号について」『音声言語VI』近畿音声言語研究会, 冒頭頁.
- 郡 史郎(2015)「日本語の文末イントネーションの種類と名称の再検討」『言語文化研究』(大阪大学大学院言語文化研究科)第41号, 85-107.
- 轟木靖子(2008)「東京語の終助詞の音調と機能の対応について - 内省による考察 -」『音声言語VI』近畿音声言語研究会, 5-28.
- 轟木靖子(2016a)「終助詞の音調の記述方法について」『日本語学』vol.35-11, 12-23.
- 轟木靖子(2016b)「終助詞『ね』の2種類の上昇音調について - 聴取テストに基づく分析 -」『音声言語VII』近畿音声言語研究会, 49-63.
- 轟木靖子(2017)「香川方言の『なんしょん』『なんしょんな』の文末イントネーションについて」近畿音声言語研究会月例会発表資料, 2017年11月14日, 於: 西宮市大学交流センター
- 轟木靖子・飯田奈津美(2018)「香川方言の『なんしょん』『なんしょんな』の文末イントネーションの意味・機能について」『香川大学研究報告第I部』第149号, 37-44.